

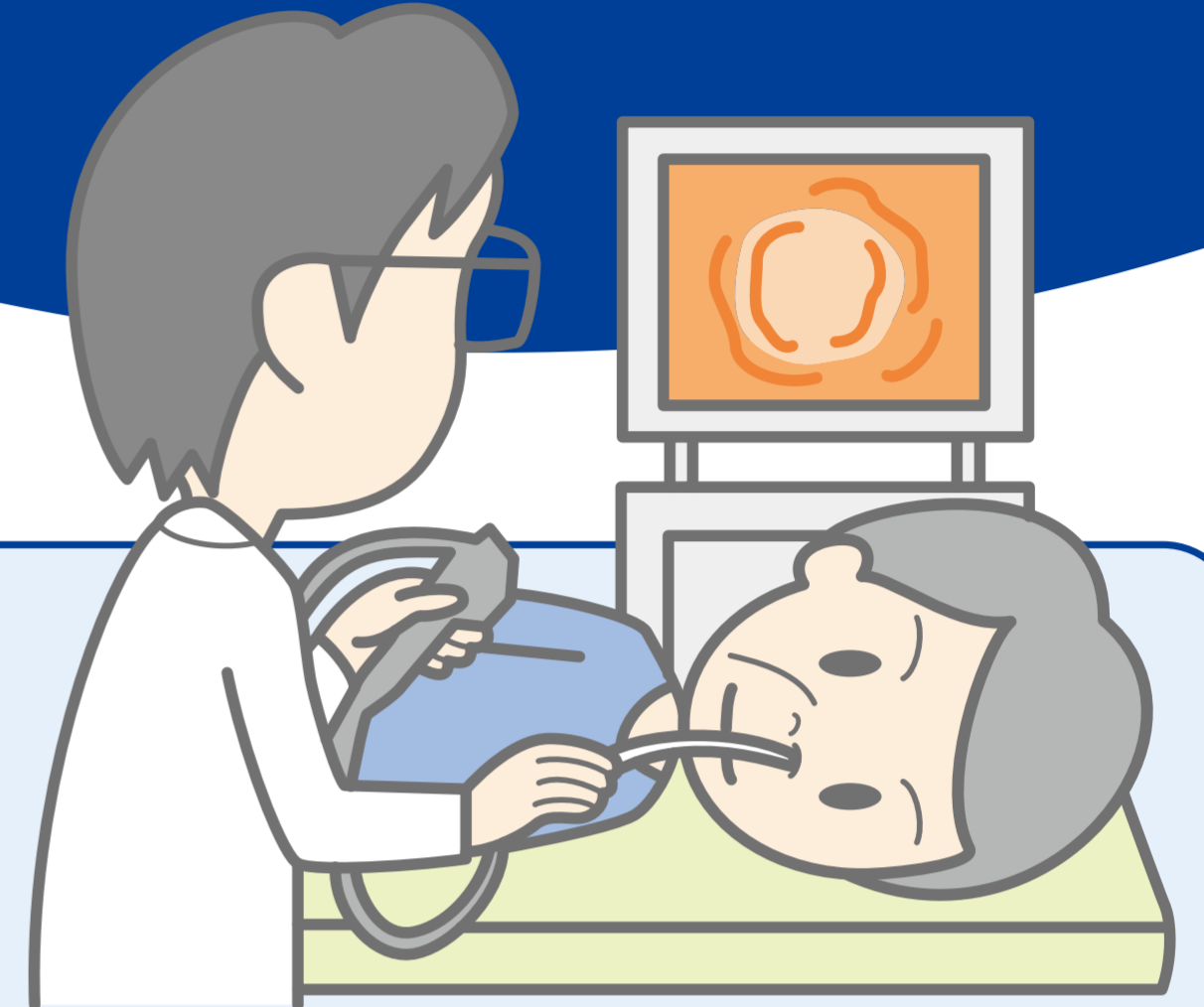


50歳からの

胃がん検診

内視鏡検査 編

内視鏡検査は胃の粘膜を直接観察することで、**小さな病変も早期に発見**することが可能です。



早期では、症状は全くありません。進行すると、食欲不振や胃の不快感、嘔吐などの症状が現れます。

検診内容

対象

50歳以上

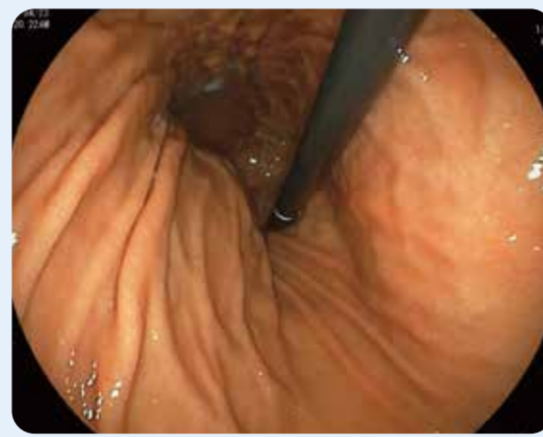
検診間隔

2年に1回

検査内容

問診・胃内視鏡検査

- ◆眠くなる注射(鎮静薬)・局所麻酔以外の痛み止め(鎮痛薬)は使用しません。
- ◆「がんの疑い」がある場合は、検査時に組織を取る検査をする場合があります。
- ◆撮影した画像は専門の医師が診断を行います。



内視鏡検査機器と内視鏡で撮影した胃の内部の画像

市町村のがん検診は国の指針に基づいた検査方法や判定で実施しています。

精密検査

検診時に組織を採取する場合は、検診で精密検査まで終了することが可能です。

検査の結果、がんが疑われる場合、再度胃内視鏡検査が必要な場合があります。

＝ TOPICS ＝ 内視鏡検診はつらい!?

内視鏡検査は、つらいイメージがある方もおられますが、口からの検査(経口)以外にも嘔吐反射がない、鼻からの検査(経鼻)もあります。

